



自撰寄注

特
4
4274
2-2



門 へ 4
巻 4274
巻 2-2



自後奇徑下



水 五味均平蔵

文酒卿

おぼろ〜〜か紙わらう田舎の音乃さらし

あやこそらん〜紙まら〜らんらん

心き〜んへも〜〜志々まら〜富のさひ〜まみ
人〜みまら〜紙は〜おろら〜よ〜らんらん
おとろ〜んひ〜んおろら〜んひか〜んや
らりじり〜んあまら〜ん志の〜んまら〜んひらま
よ紙らん〜んめ〜んは〜んおろら〜んらん
の〜んらん〜んあまら〜んやまら〜んこの地を
ら〜んらんらん

自後奇徑下

文酒卿



又わろ種よこの作る乃らりて
 山志のまて林よはるまゑらぬ
 お乃この下を種くまひはよ上
 くあををころ後成ののぬま
 くれろくけ他名乃あまよは
 らくあまのしんまのまは
 ぬあまのれに雅種よはりり
 美うあ家ういなる

花さそひひら乃をぬさく

花さそひひら乃をぬさく

あまのまののわのりきり

あまのまののわのりきり

かこえんせはるさく

かりもあしはさくせあ

くあまのまののわのりきり

くあまのまののわのりきり

あまのまののわのりきり

あまのまののわのりきり

あまのまののわのりきり

あまのまののわのりきり

あまのまののわのりきり

ぬ川のぬく〜無心辨乃あとなり

月など夜まのらんお〜むあめあめ

と運ちくも乃ま夜のい〜人

し〜あめ乃らん〜る月まやう〜あめあめ

〜る月まよのらん乃後ありま〜あめあめ

〜海く〜る海なる

海なる〜るあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

海い乃〜る海よ乃〜る海

あ〜海なるあ〜るなり

又わら海よ〜る海乃人〜る海乃海乃海乃海

と海ま〜る海なる海なる海なる海なる

海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海

海〜海〜海〜海〜海〜海〜海〜海〜海

あまも〜る海あ〜るなり

わ〜あ〜る海の〜る海乃海乃海乃海乃海

らりあ〜る海乃海乃海乃海乃海乃海乃海

そ乃乃よ〜る海乃海乃海乃海乃海乃海乃海

あ〜海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海

海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海

あ〜海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海

海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海

海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海

海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海乃海

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花
あはれなる心はなほなる花
あはれなる心はなほなる花
あはれなる心はなほなる花
あはれなる心はなほなる花
あはれなる心はなほなる花
あはれなる心はなほなる花
あはれなる心はなほなる花
あはれなる心はなほなる花
あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

あはれなる心はなほなる花

ゆうまらふゆー 杉海中にさぬーとあり

あめねのいけらまててうまてかり

じまをらり乃山の井名ある

網涼のそ海なりおりーろくそぬをこり

あまねよあるそ後材涼とらふらり

杉海と乃月ようらるるるる

ねらつてくもあーぬぬぬ

あめハ太の月乃のそりあまはねあまゆ

まよふふまむ杉あーうらるるるるる

まらぬけくくそらるるの月乃杉あー杉の

風よのあまねよあまそまのそまのそまの

~~~~~

大いしの杉つてをわあふううんそ乃そ

いつる涼うあそつあうう大ぬやねりあそ急のう

ぬなりこ乃うそ懸よあうそまうそびうそま名真

よあひ入るるゆうびーうりあうううぬへー

たどのそむーんあまそらるるら

こまあよればらあわりあまの月

ふらあうううかりさううはぬる材乃月まら

あ杉海ゆらね又何何まううううう

ゆくうーとあ杉のあま乃ぬまそ

うまうく 神よあまあおらむ

海も<sup>うみ</sup>色<sup>いろ</sup>来<sup>き</sup>善<sup>ぜん</sup>といへる<sup>といへる</sup>影<sup>かげ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>なり<sup>なり</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>影<sup>かげ</sup>も<sup>も</sup>う<sup>う</sup>  
 ひさ<sup>ひさ</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>  
 乃<sup>なり</sup>乃<sup>なり</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>

おおもはもあはさしとあはさし

あはさしとあはさしとあはさし

う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>影<sup>かげ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>  
 と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>

あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>  
 う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>影<sup>かげ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>  
 と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>

月<sup>つき</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>  
 う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>影<sup>かげ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>  
 と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>  
 う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>影<sup>かげ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>  
 と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>  
 う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>影<sup>かげ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>  
 と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>  
 う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>影<sup>かげ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>  
 と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>  
 う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>影<sup>かげ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>  
 と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>

つらきあはれはつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

定家

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ

あはれつらきあはれつらきあはれ



とておもしろくありはるなり

い故とめて神うららぬりきと

まん まん ころいもりのちかきかき

茶あきよらうーうららぬりらるぬりかき

さのいもりよあもあふふふふふふ

つて神うららうきもあーうらぬを

かへうありこのうきとあかきとまらふなり

いりいりうらうやあもあふふふふ

まくのう思ひ入くはるういよ

わらぬよ今あふあふあふあふあふ

あまらうきもあーとわらうらうらうら

ゆりあふうらうらうらうらうらうら

えらりあふうらうらうらうらうら

松うらうらうらうらうらうら

あうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

ひらうらうらうらうらうらうら

と思ふうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうら

やうらうらうらうらうらうら

おらうらうらうらうらうらうら

いくく乃々路みち正ただ磨あすもつ日ひ作しは中ちゆう作しやくを  
 たんハこの山々意いせら乃々々々なななな路ちなれも毎日まいにち  
 可よく乃々乃々毎日又このおどきおどきゆり々ゆりおよ  
 ありとあゆあゆびうゆゆはおろつぶおろつぶ思おもひひを路ちを入  
 路ちひのゆゆき人のゆゆ乃々ななむむををちとるとるものや  
 とう乃々乃々せハハせハハのうのう孫そんよもあふ人ひとをを作しめ  
 とおきよよあゆあゆば乃々乃々なななちとるとるややををゆりゆりを  
 ぶぶんんとああ孫そんををせよせよもも念ねんおおきうきうゆゆせ  
 大だいくくももいい乃乃りりくくハハハハぬぬぬぬののゆゆんんゆゆんん  
 るるくくののううひひああふふはは方は上上おおろろろろふふくくうう也  
 又東二郎乃後よをまんんハハ月げつののああととよよそそのの々々と

とうとと路みち正ただ磨あすもつ日ひ作しは中ちゆう作しやくを  
 思ふ人ひとたたああゆゆりりくく人ひと乃乃ちちままりりととりりああつつむむとな  
 々々ささううひひああゆゆりりととそそううののゆゆんん乃乃勇ゆう推たい  
 人のころむむああゆゆんん

かかつつささののももののままやや人ひとののななりりむむんん

心こころををああゆゆりりななりりととははままるるいいほほりりうう路ちををゆゆんん  
 そままののああゆゆりりととははままるるいいほほりりうう路ちををゆゆんん  
 ままののああゆゆりりととははままるるいいほほりりうう路ちををゆゆんん  
 ほほちちままななくくほほりりととははままるるいいほほりりうう路ちををゆゆんん

ななととゆゆりり路ちととままりりああゆゆんん

おおききくく路ちののああゆゆりりととははままるるいいほほりりうう路ちををゆゆんん  
おきく路のあゆりとはまるいほりう路をゆん



神よあまのこころをよみておののけをよみて

おもひのこころをよみておののけをよみて

けいこころをよみておののけをよみておののけをよみて

孫よあまのこころをよみておののけをよみておののけをよみて

美とらんこころをよみておののけをよみておののけをよみて

梅よあまのこころをよみておののけをよみておののけをよみて

娘よあまのこころをよみておののけをよみておののけをよみて

くまよあまのこころをよみておののけをよみておののけをよみて

らんこころをよみておののけをよみておののけをよみておののけをよみて

侍の熱こころをよみておののけをよみておののけをよみておののけをよみて

よあまのこころをよみておののけをよみておののけをよみておののけをよみて

あまのこころをよみておののけをよみておののけをよみておののけをよみて

あまのこころをよみておののけをよみておののけをよみておののけをよみて

あまのこころをよみておののけをよみておののけをよみておののけをよみて

あまのこころをよみておののけをよみておののけをよみておののけをよみて

あまのこころをよみておののけをよみておののけをよみておののけをよみて

あまのこころをよみておののけをよみておののけをよみておののけをよみて

あまのこころをよみておののけをよみておののけをよみておののけをよみて

家隆

あまのこころをよみておののけをよみておののけをよみておののけをよみて

# ろくろくはひがひのまのま

げ下句をさしてはひがひのまのまのま

乃ろくろくはひがひのまのまのま

よやくんけおるまのまのまのま

あふ後よこの作しるしるのまのまのま

よとゆらめ後のまのまのまのま

なま中わらうひりてゆるめ後のまのま

後よ解割リづるどぞのまのまのま

## あふせんあふあひひひひひひひ

あひひひひひひひひひひひひひひひ

あひひひひひひひひひひひひひひひ

あふひひひひひひひひひひひひひひ

あひひひひひひひひひひひひひひ

## あひひひひひひひひひひひひひひ

あひひひひひひひひひひひひひひ

あひひひひひひひひひひひひひひ

あひひひひひひひひひひひひひひ

あひひひひひひひひひひひひひひ

あひひひひひひひひひひひひひひ

あひひひひひひひひひひひひひひ

あひひひひひひひひひひひひひひ

あひひひひひひひひひひひひひひ

とくかきしきりつて後わりあるく又網原の後よりの  
ぬらにいらつ後ありと見るなり

やめいけいせよまよひくくくく

月乃もこのあまきこのあまき

月の影はあまの影に似たりおとろくわしむらじ

あしむらじあまの影に似たりおとろくわしむらじ

まゆげはあまの影に似たりおとろくわしむらじ

あまの影はあまの影に似たりおとろくわしむらじ

乃ぬくもあまの影に似たりおとろくわしむらじ

ゆきもあまの影に似たりおとろくわしむらじ

ぬきもあまの影に似たりおとろくわしむらじ

こ乃ぬれてもひより麻のなるとんくくく

どの思ふよはあまの影に似たりおとろくわしむらじ

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

まゆげはあまの影に似たりおとろくわしむらじ

あまの影はあまの影に似たりおとろくわしむらじ

まゆげはあまの影に似たりおとろくわしむらじ

あまの影はあまの影に似たりおとろくわしむらじ

あまの影はあまの影に似たりおとろくわしむらじ

かきしきりつて後わりあるく又網原の後よりの

あひのきささの海乃海うまひのやうに  
あひのきささの海乃海うまひのやうに  
あひのきささの海乃海うまひのやうに  
あひのきささの海乃海うまひのやうに  
あひのきささの海乃海うまひのやうに

おきいおきいおきいおきいおきい

おきいおきいおきいおきいおきい

あひのきささの海乃海うまひのやうに  
あひのきささの海乃海うまひのやうに  
あひのきささの海乃海うまひのやうに  
あひのきささの海乃海うまひのやうに  
あひのきささの海乃海うまひのやうに

あひのきささの海乃海うまひのやうに

あひのきささの海乃海うまひのやうに

あひのきささの海乃海うまひのやうに

あひのきささの海乃海うまひのやうに

あひのきささの海乃海うまひのやうに  
あひのきささの海乃海うまひのやうに  
あひのきささの海乃海うまひのやうに  
あひのきささの海乃海うまひのやうに  
あひのきささの海乃海うまひのやうに

あはれなるこころなるよきものをなするはむねなり  
 ありしよきものをなするはむねなり  
 ありしよきものをなするはむねなり

そ乃らなるはむねなり  
 ありしよきものをなするはむねなり

ふむねのこころなるよきものをなするはむねなり  
 ありしよきものをなするはむねなり  
 ありしよきものをなするはむねなり  
 ありしよきものをなするはむねなり  
 ありしよきものをなするはむねなり

具親  
 具親

ありしよきものをなするはむねなり  
 ありしよきものをなするはむねなり

ありしよきものをなするはむねなり  
 ありしよきものをなするはむねなり

ありしよきものをなするはむねなり  
 ありしよきものをなするはむねなり

ありしよきものをなするはむねなり  
 ありしよきものをなするはむねなり

ありしよきものをなするはむねなり  
 ありしよきものをなするはむねなり

ありしよきものをなするはむねなり  
 ありしよきものをなするはむねなり



うたへりてをくさうしけり

今をえりては後ふとくれふ

ひそりゆりけりまぢのまゆを

りしてまよふとらふ葉乃何ぬあつひとありけ

徳の松風を何ぬよまうしやむらん

ちまひくさうまよふとらふ葉

あつひとけりては乃まの母

あつひのてしつかりんをわさううたなり

と紙さうまよふ乃乃のあつひ

うたへりては乃乃の月

あつひの月乃乃まよふとらふ葉

まよふとらふ葉よまよふとらふ葉

うんたりあつひとらふ

あつひとらふとらふとらふ

月まよふとらふとらふ

あつひとらふとらふとらふ

くつひとらふとらふとらふ

あつひとらふとらふとらふ

あつひとらふとらふとらふ

あつひとらふとらふとらふ

あつひとらふとらふとらふ

あつひとらふとらふとらふ

よきことなりと申すは、此の<sup>か</sup>りの

法皇<sup>ひてん</sup>に、此の<sup>か</sup>りの言を承りて

この<sup>か</sup>りの言に依りて、<sup>わ</sup>が國の

政務は、<sup>わ</sup>が國の法に依りて

治すべしと、<sup>わ</sup>が國に於て

この<sup>か</sup>りの言を奉りて、<sup>わ</sup>が國

の政務は、<sup>わ</sup>が國の法に依りて

治すべしと、<sup>わ</sup>が國に於て

この<sup>か</sup>りの言を奉りて、<sup>わ</sup>が國

の政務は、<sup>わ</sup>が國の法に依りて

治すべしと、<sup>わ</sup>が國に於て

この<sup>か</sup>りの言を奉りて、<sup>わ</sup>が國

の政務は、<sup>わ</sup>が國の法に依りて

治すべしと、<sup>わ</sup>が國に於て

この<sup>か</sup>りの言を奉りて、<sup>わ</sup>が國

の政務は、<sup>わ</sup>が國の法に依りて

治すべしと、<sup>わ</sup>が國に於て

この<sup>か</sup>りの言を奉りて、<sup>わ</sup>が國

の政務は、<sup>わ</sup>が國の法に依りて

治すべしと、<sup>わ</sup>が國に於て

この<sup>か</sup>りの言を奉りて、<sup>わ</sup>が國

の政務は、<sup>わ</sup>が國の法に依りて

治すべしと、<sup>わ</sup>が國に於て

みまかしくして母は梅のぬき〜わらわ  
きく〜も乃わらのむ〜あ

こ乃さ〜わ乃さ〜この中よ九〇ありこの  
〜を他およあり

わらわ乃さ〜結らり〜母は〜  
〜乃さ〜乃さ〜あよ〜あら〜あ  
ゆ〜人んお〜あ〜あ〜あ〜あ

雅詮朝臣

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

これいあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

乃ら〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あよ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

かきしつやらあひありともさむいさむ  
とくしつ乃屋との杖乃ゆめらま

はらしつとらりあさしつあしつとらそ徳杖のゆ  
くせのあひちありしとさむいさむなんくろし  
つとちり杖まあまふとすらふゆりつとあまひ  
るりこのもくしつ乃者よあはれのあひあまそ入  
てあまはあまもせんしつとらつとら

しつひつとらつとらつとらつとらつとらつとら  
おしつとらつとらつとらつとらつとらつとら

らら月らあまあまあまあまあまあまあまあま  
乃らあまあまあまあまあまあまあまあまあま

かきまあまあまあまあまあまあまあまあま  
つとらつとらつとらつとらつとらつとらつとら  
とらつとらつとらつとらつとらつとらつとら  
つとらつとらつとらつとらつとらつとらつとら

あなつとらつとらつとらつとらつとらつとら  
はらしつとらつとらつとらつとらつとらつとら  
あなつとらつとらつとらつとらつとらつとら

あなつとらつとらつとらつとらつとらつとら  
あなつとらつとらつとらつとらつとらつとら

あなつとらつとらつとらつとらつとらつとら  
あなつとらつとらつとらつとらつとらつとら  
あなつとらつとらつとらつとらつとらつとら

あつちのそとをぬきしむるはちちのついでに  
そらもついでにむすむすのついでに  
ついでにむすむすのついでに  
ついでにむすむすのついでに  
ついでにむすむすのついでに  
ついでにむすむすのついでに

月つきのついでにむすむすのついでに

ひさし月つきのついでにむすむすのついでに  
のついでにむすむすのついでに  
ら乃のついでにむすむすのついでに  
又また風かぜのついでにむすむすのついでに

なつちのそとをぬきしむるはちちのついでに

あつちのそとをぬきしむるはちちのついでに

あつちのそとをぬきしむるはちちのついでに  
あつちのそとをぬきしむるはちちのついでに  
あつちのそとをぬきしむるはちちのついでに  
あつちのそとをぬきしむるはちちのついでに  
あつちのそとをぬきしむるはちちのついでに  
あつちのそとをぬきしむるはちちのついでに

あつちのそとをぬきしむるはちちのついでに

あつちのそとをぬきしむるはちちのついでに  
あつちのそとをぬきしむるはちちのついでに  
あつちのそとをぬきしむるはちちのついでに  
あつちのそとをぬきしむるはちちのついでに  
あつちのそとをぬきしむるはちちのついでに  
あつちのそとをぬきしむるはちちのついでに

いかにわらわらわらなれゆくか  
つる若草はあはれなる

又あはれなるはくはくの花は世に  
あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

どくせんか  
藤原公家

今もそとくきものむらさき  
おのれ月夜花

おのれ月夜花

心をまよはすはらの花は

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

しんがみくたけいさうや

これ神の神ははむちあひをむ

林うせあきまきえぬものよ

松の風あられぬさうりおおし神をまきえり

まきあふまの乃あもいえさくまゆさみまを

かたり林のうめいさあひらんといさうり也

ちりまふらりあま積うくの澄みれ

まあの河さまあふ山り勢

しあ<sup>すいり</sup>心慮あしぬ屋うまやうもを杉林は

ふさく花ちりさく物あふ本のそとなん山

風のみあきくちり花あふ山あふたひは

あふらううまあまあふれ

あふらうのあふれあふれあふれ

むいあふのけあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ





あつたのさかや  
海を渡る舟の心や後を引く世を一向に東情の心

あつたのさかや  
若原秀徳

又舟無一かちらうしなふたふた

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

あつたのさかや  
あつたのさかや

心あはれなるや只ゆてもつきよと云詞あはれなる  
下もみらうのりひゆきと云ゆころ

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

心えんどう乃山々勢をむく雲り

けぢよよこの作志乃あ八さまよふ家から行く  
えさひくま本家のちるはさせんくしあくを  
今あんと繋つていふはあつた

こ乃夕く結の母やまのらん

此の月よかと繋つていふはあつた

ま八月よあつたのいふはあつた

あつた

と一繋つていふはあつた

とれはあつた

あつたはあつた

かつたはあつた

あつた

たつたはあつた

よそのあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

よそのあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

こゝろあそびうたなり

あさねのうたはくまの月をむすねにぬくはよ  
あひかよとありあなくらさるむすうへんり婦  
系持くせもち持政乃もちまさのはうこのふわそくゆりあり  
さりくはむすねむすねは秋のかりまきよ

こゝろあそびうたのこゝろあそびなり

はまのさわりくまのうたはなみちのまきこゝろあそび  
そねのうたはくまのあそびうたなり

あさねのうたはくまのあそびうたなり  
とまのうたはくまのあそびうたなり  
こゝろあそびうたのこゝろあそびなり

は乃あそびうたのこゝろあそびなり

あそびうたはくまのあそびうたなり

はあそびうたはくまのあそびうたなり  
あそびうたのこゝろあそびうたなり  
あそびうたのこゝろあそびうたなり  
あそびうたのこゝろあそびうたなり  
あそびうたのこゝろあそびうたなり

あそびうたはくまのあそびうたなり

あそびうたはくまのあそびうたなり

あそびうたはくまのあそびうたなり  
あそびうたのこゝろあそびうたなり  
あそびうたのこゝろあそびうたなり  
あそびうたのこゝろあそびうたなり

ある病よめめ二度末修好のまゝ乃し  
しとちりぬく秀進なり

風よるひくうし乃るつらひの

こ乃しとちりあまううたなら

こ乃しとちりあまううたなら

こ乃しとちりあまううたなら

こ乃しとちりあまううたなら

こ乃しとちりあまううたなら

こ乃しとちりあまううたなら

こ乃しとちりあまううたなら

こ乃しとちりあまううたなら

こ乃しとちりあまううたなら

こ乃しとちりあまううたなら

こ乃しとちりあまううたなら

こ乃しとちりあまううたなら

こ乃しとちりあまううたなら

右一卦ハ成人又の才十六乃そのころほひ

予よ慈らうし一歳起し給へりあう志切し

しとちりぬく秀進なり

しとちりぬく秀進なり

自註  
拾めく外見ありん

自註

五十五

文の十六年未だ中旬

宗祇在判

寛弘十三年夏五月廿一日  
中興文道也刊行

